

3 (5) 商業

■ 現状

令和3年経済センサス-活動調査結果によると十勝管内の事業所数（卸売業・小売業）は、3,204事業所で全道の7.4%を占め、構成比は卸売業24.7%、小売業75.3%となっています。

また、従業者数（卸売業・小売業）は25,375人で全道の6.7%を占め、構成比は卸売業25.8%、小売業74.2%となっています。

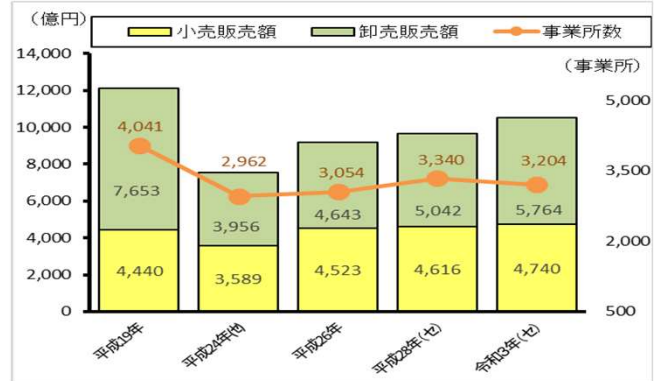
■ 年間販売額

令和3年経済センサス-活動調査（卸売業・小売業）における十勝管内の年間販売額は、1兆505億円で全道の6.1%を占め、構成比は卸売業54.9%、小売業45.1%となっています。

■ 十勝管内の大型店の状況 (売場面積1,000㎡)

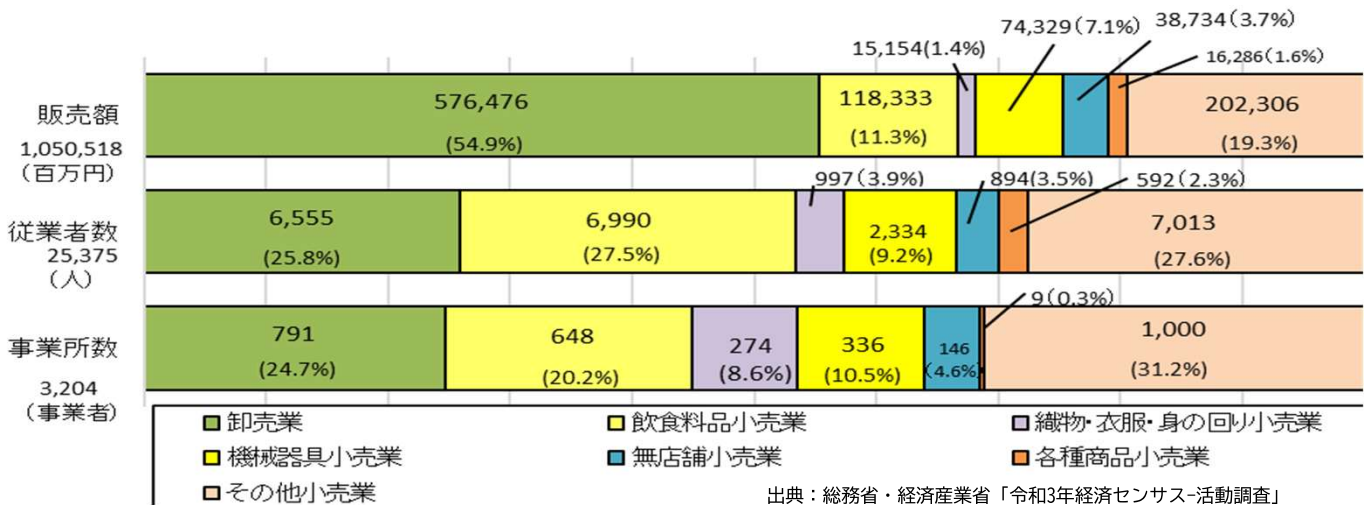
1市11町1村に100店舗が開設しており、大半は帯広市に集中(58店舗)しています。(令和7年12月末現在)

十勝管内の事業所数及び販売額の推移



出典：経済産業省「平成19、26年商業統計調査」
総務省・経済産業省「平成24、28、令和3年経済センサス-活動調査」

十勝管内の販売額、従業者数、事業者数の業種別構成比



■ まちの新しい動き

帯広市内では、令和5年1月末に藤丸百貨店が閉店、同年7月には長崎屋帯広店が営業を終了し、令和6年3月に全館閉館しました。さらに、令和6年6月末にはイトーヨーカドー帯広店も閉店するなど、大型店の閉店が相次いでいます。

一方で、藤丸百貨店は新たに設立された藤丸株式会社のもと、令和7年9月に旧店舗の解体が始まりました。再開発について検討が進められ、令和7年7月には、帯広市内中心部で仮設商業施設の「藤丸パーク」がオープンしました。また、長崎屋帯広店については施設の解体が完了し、高層マンションや商業施設を新築する事業が計画されているほか、イトーヨーカドー帯広店の跡地には後継テナントとしてダイイチが出店し令和6年9月にオープンしました。

その他、十勝管内における動きとして、音更町では国道241号沿いに大型店の出店が相次いでおり、令和5年には十勝初となる無印良品が出店しました。また、新得町ではJR新得駅前の再整備を進められ「地域交流センターとくとく」がオープンしました。

さらに、令和7年9月に開催された十勝最大の食と音楽のイベントである「とかちマルシェ」では、過去最多の12万3000人の来場者を集めました。

3 (6) 観光

■ 十勝観光の特徴

近年は、農作業体験、アウトドア体験、ガーデン巡り、ばんえい競馬、サイクリング、サウナなど十勝の自然や産業を活かした観光メニューが人気で、観光の目的が多様化しています。このような中で、全国的にも有名な豚丼、スイーツ、チーズをはじめとする質の高い乳製品、地元産の食材を使った飲食店などが注目されており、食は十勝の観光の大きな魅力となっています。

また、日高山脈襟裳十勝国立公園が指定され、大雪山、阿寒・摩周とともに山岳景観による自然景観も魅力となっています。

■ ナショナルサイクルルート「トカプチ400」

トカプチ400は道内唯一、全国6カ所で指定されているナショナルサイクルルートの1つです。帯広市を起終点とした広大な十勝平野を8の字に結び、北は三国峠の山岳ルート、南は日高山脈や広大な平野を望むパノラマルートなど延長403kmのコースです。

レンタサイクルも充実しており、街乗りからロングライド、雪上サイクリングまで通年で楽しむことができます。

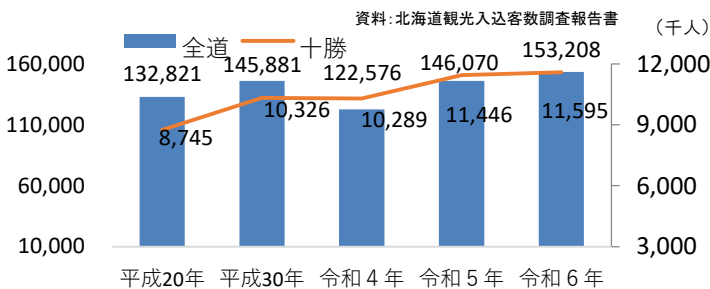
■ 十勝でサウナ

サウナの本場フィンランドの自然環境に似ている十勝では、フィンランド式の本格サウナや大自然の中でのアウトドアサウナなどを楽しむことができます。特に冬の凍結した屈足湖上で行われる「アヴァントサウナ」は、全国からサウナ愛好家が訪れています。

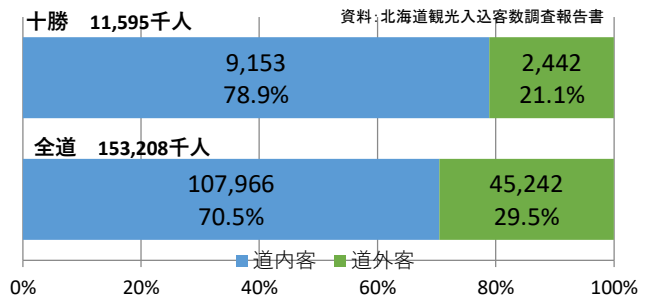
■ 入込数

令和6年度十勝管内の観光入込客数は、前年度比1.3%増の約1,159万人となり、過去最高値であった令和5年度の約1,145万人を上回りました。内、道外客が同1.3%増の約244万人、宿泊客は同11.4%増の約167万人、内、訪日外国人宿泊客数は同32.6%増の約13万人となり、新型コロナウイルス流行前で過去最高値の約14万人（平成30年度）と同水準となりました。

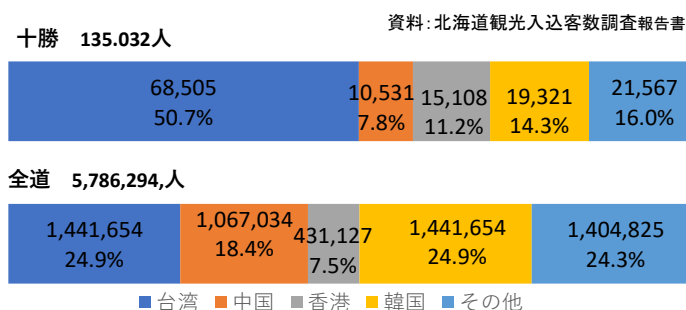
観光客の推移



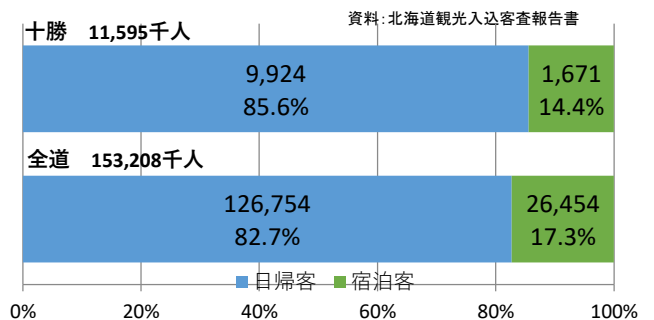
道内道外別観光入込客数 (令和6年)



外国人宿泊者数 (令和6年)



宿泊日帰別観光入込客数 (令和6年)



■ これからの取組

日本を訪れる外国人観光客数の増加が続く中、海外の旺盛な需要に応えるべく、農業や食、恵まれた自然環境を活かした誘客促進や魅力発信の取り組みを推進します。



3 (7) 航空宇宙

■ 航空宇宙の取組

十勝地域は、南東に大きく海が広がり、ロケットなどの打上げに適していることから、本道における航空宇宙産業基地構想の有力な候補地として期待されているほか、大気や宇宙の観測拠点として、様々な大学や研究機関による調査、実験活動が行われてきました。

大樹町には、滑走路や大型飛行船に対応した格納庫、飛行管制塔などを備えた「大樹町多目的航空公園」が整備され、大気球等を用いた宇宙科学実験が実施されています。

陸別町には、「銀河の森天文台」が設置され、成層圏・対流圏の観測や、真っ赤な低緯度オーロラの撮影、研究が行われています。

近年では、平成28年に制定された「宇宙活動法」を契機として、民間主導による宇宙開発が進められています。農作物の生育状態などを把握するリモートセンシングの活用など、衛星データの地域課題解決へ向けた利活用が先進的に進められるほか、大樹町に拠点を置くベンチャー企業により開発された小型ロケットが令和元年に国内民間企業として初めて宇宙空間に到達（113.4キロメートル）し、令和3年には1ヶ月の間に2機連続で宇宙空間に到達しました。

こうした流れの中で、町と道内企業等がともに出資し、ロケット・スペースプレーンの発射場・実験場となる北海道スペースポートの管理運営を担う「SPACE COTAN（株）」が令和3年に設立され、十勝を舞台にした「宇宙版シリコンバレー」の形成に向けた動きが本格化しました。企業版ふるさと納税を積極的に活用して推進してきた北海道スペースポート整備事業は、令和4年3月に国の地方創生拠点整備交付金にも採択されるなど、民間商業宇宙港の実現に向け着実に歩みを進めています。令和6年度には、滑走路を1,000mから1,300mに延長する工事が完了し、従来よりも規模の大きい実験や機体の受入れが可能となりました。現在は令和8年度の完成を目指し、人工衛星の打上げに対応したロケット射場「LC1」の整備が進められています。

令和5年には文部科学省SBIR制度において、民間による宇宙輸送事業の社会実装に向けた支援が始まったほか、令和6年に改定された「宇宙基本計画工程表」において、国は、国内でロケット開発に取り組む事業者の開発・事業支援等を通じ、2030年代前半までに我が国としての打上げ能力を年間30件程度確保するとしており、国の基幹ロケットのみならず民間による宇宙輸送事業の確立が期待されています。

また、令和3年度より帯広市内において「北海道宇宙サミット」が開催され、十勝管内への宇宙産業集積に向けた取組が進められています。今後も、地域の関係者が連携して管内住民や企業等への理解を深める活動など様々な取組を進めて行くことが一層重要となっています。



北海道スペースポート構想
(画像提供：SPACE COTAN株式会社)



超小型人工衛星打上げロケット「ZERO」
(画像提供：インターステラテクノロジズ株式会社)